

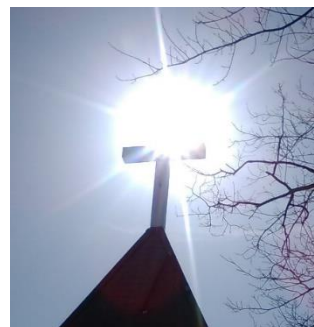
「剣を鋤に、槍を鎌に！」(2024. 12. 8)

主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。

彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。

国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。(イザヤ 2:4)

終わりの日に、主なる神が裁き、戒めを与られます。戦い争う世界を裁かれるのです。その裁きを通して多くの民は平和への道を学ぶのです。剣を鋤に、槍を鎌にするのです。命を奪う戦いの武器を、命を育む農具に変えるのです。



「剣を鋤に、槍を鎌に」この言葉は国連広場の壁に刻まれています。国家を束ねるこの広場の壁に、この御言葉が刻まれてあることは意義深いことです。また、日本国憲法の9条もこのイザヤの預言そのものです。「誰かが自ら買って狂人にならない限り、世界は軍拡競争の蟻地獄から抜け出すことができない。日本が世界に先駆けてこの狂人となり、その使命を果たすのだ！」これは憲法9条の発案者と言われる幣原(しではら)喜重郎の言葉です。原爆の廃墟から芽生えた悲壮なる決意です。

イエス様はこういわれました。「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える。」イエス様の使命は平和・シャロームを与えることです。続けてこういわれました。「わたしはこれを、世が与えるように与えるのではない。」(ヨハネ 14:27)どのようにして与えるのでしょうか。激しい痛みにも悶えながらも、自分を愚弄し殺そうとする人々を目の前にして、「父よ、彼らを赦したまえ」と祈るのです。ここには何ものにも揺るがない真の平和を発見します。神との平和です。この神との平和を与えるために主は十字架で死を味わい、復活されたのです。私たちが雪のように白くし、私たちが神の子として神との平和に生きるためです。それゆえ開口一番こう祝福されました。

「あなたがたに平和・シャロームがあるように」(ヨハネ 20:19)

12月24日イブ礼拝です。横手の人々に平和の主のご降誕を知らせ、共にお祝いする礼拝に招きましょう。そして、イザヤの預言が世界に実現するよう、神との平和を求める方が起こされるよう、祈りましょう。